



道神青



令和四年三月
三十一日発行



北方会長インタビュー

「コロナ禍での奮闘、会長の想いを届けたい」

取材日 令和四年二月十五日
取材者 事業部会

担当副会長

荒木直弥
副部会長 黒野紘史

部会長

井上真輔
部会員 鳥居俊宏
担当監事 菊池友享



(黒野) まず始めに、今期は会長就任当初からコロナ禍での事業展開を余儀なくされ、活動が非常に難しく判断に迫られる一年であったと思います。この一年の道神青協の活動を振り返り、感想をお聞かせください。

(北方) 前期の芦原会長長期は二年目からコロナ禍での活動となり色々大変だったと思います。私の期はある程度一年目もコロナが付きまとう一年になることは予想しておりましたので、最初から難しい状況ながら活動していかなければならないなとは思っておりまして。そうした中でも、役員の皆さんが各副会長を中心にそれぞれ、平時と変わらない事業を進めてくれました。胆振東部地震の慰霊祭は役員と胆振青年神職会の会員さんとの身内だけのお祭りとなっていました。しかし、しっかりと三年の節目に慰霊祭を行い、次の五年、十年の節目に託すことはできたと思っております。

また、研修会は宗谷さんが少ない会員数でもしっかりと運営準備をしてくれましたし、何よりも多くの会員の皆様にご参加いただいたことは本当に嬉しかったですね。スポーツ大会の中止は残念でしたが、前期のおもてなし心得に続き、実践で役に立てるコロナ対策社頭アナウンス音源の配信

は今の時代に正にフィットした事業になったと思います。そして事業部会の皆様にご担当いただきました、インスタグラムフォトコンテストはフォロワー数が減っても失敗した訳ではないんだ、という強い想いをもって道内神社に限定したフォトコンテストを開催しました。結果的にフォロワー数を増やすことにもなったのは事業部会の皆さんの頑張りのお蔭であると思っておりますし、感謝しかありません。二月の新春研修会と三月の中央研修会がまだ残っています。一先ず一年目を走り抜けそうなので良かったなと思っております。

(黒野) 北方会長は現道神青協役員の中で最も長い期間役員を経験されていると思います。これまでの経験をともに道神青協とはどういった組織か。またはその魅力とは何かお聞かせ下さい。

(北方) 私の場合は何も分からず一年目の秋から神青協の神宮啓発委員になり、それに伴って道神青協の役員会に呼ばれて、理事になり今で十六年目になります。最初は完全に北方宮司の息子さんとして扱ってもらえなかったですし、だからこそそういう役をいただけたんだなと思います。

そこで皆様と活動していく中で認めてもらえたと言いますが、仲

間として接してもらえた時は嬉しかったですね。何年も役員の中で私が一番年下だったので、誕生日に役員会が重なったりすると、懇親会でケーキやプレゼントなど用意してくれて誕生日会をしてくれたことは本当に嬉しかったですし、いい思い出です。

(荒木) 道神青協は、この広い北海道において活動するときは一枚岩になって取り組みますし、お互い認め合って仲良くなって、困ったときにも助け合える組織だと思えます。青年会の活動以外でも、もちろん普段の社務の中でも助け合うことに繋がります。是非新しい人達には道神青協の事業にどんどん参加していただき、仲間を作っていただきたいと思えます。

(荒木) 道神青協の役員に加えて神青協の役員も長く務められております。神青協の活動についてお聞かせ下さい。

(北方) 神青協に向向して良かったと思っています。それは、全国では刺激を受けるといふか、頑張っている方がいっぱいいるので、そういう人達の声を直接聞けますし、御朱印やインスタグラム、花手水は神青協の役員さんに力をいただいたというか、背中を押していただいたこと。そういった話を聞いたからこそ、今の社務

に生きていると思っています。これから先、神青協に向向する機会があるならば是非とも前向きに検討していただきたいと思えます。最初は大変だと思えますが、そこで仲間を作って、話を聞いて自分の社務に生かす。という強い意志を持って参加すれば絶対に神青協というのには参加して良かったなと感じる凄い組織だと思っています。

(井上) 道神青協に入会された当時、多くの先輩諸氏がいらっしやったかと思えますが、当時の道神青協についてお聞かせ下さい。

(北方) 私が入った時は大野さんが会長の時。副会長に中村さん、加藤さん。後志の後藤さん、そういったメンバーでしたけど、凛とした雰囲気を感じつつ緊張感を持って取り組んでいたなという印象があります。そこから中村先輩、前田先輩、伊部先輩、三橋先輩、村井先輩、芦原先輩となり、それぞれの会長の時にそれぞれの会長の色があり、様々な事業を展開されていました。また、いざ懇親会になるとみんな飲んで、二次会に行くと、ガンガン飲まれてガンガン歌わされて、そういう時代でしたね。笑

ただ今の時代、そういうのはなかなか受け入れられない時代なので、そこを考えた上で懇親会だけ

でもゆっくり楽しんで仲間を作る雰囲気作りをこれからしていかなければならないと思えますね。

(井上) 道神青協は仲間作りの場所でもあるということですね。

(北方) そうですね。現会員もそうですが、卒業された先輩方も今でもたまに会ったら変わらず声を掛けてくれますし、そういった仲間がどんどん増えていくのは非常に良かったなと思えます。仲良くなくて仕事で助けてもらうこともあり、悩みも聞いてくれますし、同じ業界にいる心強く、ありがたい存在なのかなと思えます。

(黒野) これまでの道神青協の活動の中で特に思い出に残っていることや勉強になったことなどあればお聞かせ願います。

(北方) この研修で身になったっていうのが一つには言い表せないくらいたくさん勉強をさせてもらいました。

その中でもやはり忘れられないのは研修・事業ではないんですけど、十一年前の東日本大震災の復興支援活動というのはどうしても忘れられないというか、思い出される道神青協の活動の一つですね。十一年前の震災発生から

一か月後、四月にまだまだ現地が大変な時に、手稲神社さんのバスを借りて、そこに装束や支援物資を詰め込んで苦小牧まで行き、そこからフェリーに乗って青森まで行き、現地まで行って支援物資、装束などを届けて使ってもらったという活動を一回目で行ったんですね。やはり道神青協として装束を、北海道の各お宮さんから集めて支援物資も集めて「行くぞ」と声掛けして、いざ本当に行ったという行動力は今考えると本当に凄いなと思えます。「道神青協はそういった素晴らしい活動をしたんだ」というのをしっかり伝えていきたいと思っています。復興支援は計五回程行いましたが、特に一回目がとても印象に残っております。

(井上) 当時の復興支援の様子をお聞きしてもよろしいですか。

(北方) 装束とか各宮司さんにお渡しする時は会長や先輩が行っていました。

また、炊き出しで焼きそばやご飯を作ってお渡しした時に、芦原さんが泣いていらっしやったんですね。加藤さんがそれを見てどうしたのかって心配して声を掛けたら、今度は加藤さんも泣き出しちゃって。その理由を聞いたら、地元の方々が「今本当に辛いことはわかりだったけど、こういう風に

してもらえてお正月とお盆がいっぺんに来たみたいだ」と仰っており、みんなが集まり幸せな空間を作ってくれたことに対する感謝の言葉を受けてお二人が感動されていたようで、私もグッと来たのを覚えています。それだけみんな感謝されたというか喜んでくれたというのは行ってよかったと思うところですね。また、単体会関係なく、道神青協の先輩後輩として感動を分かち合える関係も素晴らしいなと感じました。

(黒野) 会長は通信八十号で「現代はSNSの時代であり、自分で情報を探し選択する時代。斯界に於いても積極的に情報を発信し正しい知識と情報を浸透させていかなければならない。」と述べられています。コロナ禍により更に情報化社会が進んだ今、道神青協として或いは青年神職としてどのようにお考えですか。

(北方) この発言は自分でもSNSについてまだ深く理解していない中で申し訳なかつたんですけども、これは危機感をみんなに持つてほしかったということに他ならないわけです。是非何か、皆さんそれぞれ神社としての情報を発信してほしいなと思っております。当社はインスタグラムをやっているんですけども、自分の神社で

始めて大体一年半程になります。始める前と後でははっきりわかったことが一つあるんですね。それは、インスタグラムは若い方以外も結構やっているということです。インスタグラムを始める前は十代とか二十代の人たちが中心にやっていたSNSだと思っており、最初は十代二十代の方をターゲットにしようと思ってたんですが、いざやってみたら十代二十代だけではなくて、思っている以上にいろんな世代が見てくれる。日々授与所に立っていると、「インスタグラム見えています」とかすぐく声を掛けられるんですが、そうやって声掛けてくれる方が五十代六十代とか七十代の方もいるので、イメージと違うなと思つて、インスタグラムって皆さん活用されていると思つています。道神青協はインスタグラムもありますし、フォトコンで多くのフォトワーを持っているわけですから、先日も北方領土の啓発事業をしていただきましたけれども、そういういった取り組みをどんどん今後も続けていくべきだなと思っておりますし、それが結局様々な世代への情報発信になるんだなと今は考えております。

(黒野) 北方会長期も残り一年余りとなりますが、来年度に向けた活動についてお話を伺えたくござ

い。

(北方) 今まさに来年度の活動方針を考えているところではあります。が、来年度もコロナ禍での活動となると思っています。その中で何が出来るのか。フォトコンをするにしても何か新しい切り口で出来ないか、日々色々考えているところでございますし、会長がやりたいことをする会ではないと思つているので、皆が求めることやりたいと考えております。

あとは来年度こそ懇親会や会員同士の親睦を深める事業も行いたいなと思つています。そして是非とも参加していただきたいです。

(黒野) 最後に全道会員の皆様へ一言お願い致します。

(北方) コロナ禍ということになかなか会員の皆様にはお会い出来ないですし、お会いしたとしてもゆっくりとお話する機会というものがないです。本当に申し訳ないと思つております。こうしたコロナの状況ですけれども是非道神青協の諸活動に御参加をいただきたいなと思つております。一緒に参加した事業や研修というものは必ず自分の身に帰ってくるものだと思つております。地域以外の仲間を作ることも大きな財産かなとも思いますし、また、こうした

研修や事業というものはどうなんでしょうか、というような意見というものもどんどん求めておりますので、是非とも各地区の理事さんを通してお声掛けいただきたいなと思つております。是非とも会員の皆様が興味のある、参加したくなるような研修や事業というものを行つていきたいと思つておりますので宜しくお願いしたいと思います。又、令和五年度には北海道の地にて神青協の中央研修会が開催される予定となっておりますし、そしてそのあとは道神青協の七十五周年も控えている訳でございます。会員の皆様にもご協力いただく場面が多々あるかと思つています。何卒ご協力のほど宜しくお願い致します。





北方領土の神社

北海道の神社百景



北海道神道青年協議会
※画像引用先著書：懐かしの千島…写真集



北方領土啓発事業 インスタグラム

「北海道の神社百景」 ～北方領土の神社～

去る令和四年二月一日～七日まで北方領土啓発事業として道神青協インスタグラムアカウントにて「北海道の神社百景」～北方領土の神社～を実施致しました。

本事業は昨年開催したインスタグラム「北海道の神社百景」に付随した特別企画という形で、拡散性の高いSNSツールであるインスタグラムを利用しユーザーの方へ北方領土に御鎮座されていた神社の写真を紹介すると共に、北方領土問題に興味、関心を持っていただくこと、又二月七日が北方領土の日であることの周知を目的として企画致しました。

当会では過去に北方領土啓発ポスター、千島桜ピンバッチ、啓発パネル製作の他、返還要求署名キャラバン隊を結成し署名活動などの啓発事業を行って参りました。今回、SNSを利用した啓発活動は初めての試みでありユーザーの反応など未知数な部分もありましたが、期間中投稿した写真は合計約七万人の方に閲覧していただき、ご覧になられた方からは北方領土の神社や北方領土問題に関して様々なコメントをいただきました。企画を後押しするようなコメントもいただきネットを通じて多

くの方の目に留まることにより興味や関心のきっかけとなることはSNSを利用する大きな利点だと再確認させられた所であります。本事業をきっかけに多くの方が北方領土問題に対しより関心をもっていただけましたら幸いに存じます。

現在元島民の方の平均年齢は八十六歳に達し、島を追われ故郷の土を踏むことなく無念の想いで亡くなられた方も多くいらつしやいます。一日も早い北方領土の早期返還を願うと共に、国の返還交渉を強く後押しをするためにも国民一人一人の「声」をより大きくしていかねればならないと思う所であります。

本事業を実施するにあたり根室金刀比羅神社様をはじめ各社宮司様、会員の皆様におかれましては資料提供、SNS等を通じた周知活動に御



北方領土の日周知画像

令和三年度北海道神道青年協議会 新春研修会

協力いただきましたことを厚く御礼申し上げます。今後もより多くの方が北方領土問題に関心を持っていただける方法を模索し、署名運動、周知運動等の啓発活動を継続していく次第です。一日も早く北方四島が返還されますことをご祈念申し上げます。

尻岸内八幡神社 荒木直弥

| | 神社名 | 場所 |
|---|-----------|----------|
| 1 | 勇留島金刀比羅神社 | 齒舞諸島・勇留島 |
| 2 | 斜古丹神社 | 色丹島・色丹村 |
| 3 | 泊神社 | 国後島・泊村 |
| 4 | 東沸神社 | 国後島・泊村 |
| 5 | 紗那神社 | 択捉島・紗那村 |
| 6 | 老登山神社 | 国後島・留夜別村 |

紹介神社一覧



こちらのQRコードを読み取ると紹介した神社の写真をご覧にすることができます。



講師の細川雅彦先生

去る令和四年二月二十四日、令和三年度新春研修会が道神青協会員三十六名参加の下執り行われました。新型コロナウイルス感染症の流行に鑑み、昨年に引き続きZOOMを用いたオンライン形式での開催となります。

本年は公益財団法人札幌市防災協会より防災・危機管理専門官細川雅彦先生を講師としてお招きし、「神社における災害への備え」をテーマに講義を戴きました。

噴火などの自然現象に際して人

的・物的な被害を伴うものを災害と定義し、いかに被害を軽減させるかが防災・減災のポイントとなります。

東日本大震災における岩手県釜石市



新春研修会の様子

や宮城県石巻市の小学校を例示され、前者は被害が非常に少なく抑えられたのに対して後者では甚大な被害を受けました。この分水嶺となったのが、正常性バイアス(偏見)であると指摘します。死に至るような災害の経験とイメージの欠如から、自分は安全であるという根拠のない思い込みを持ち、結果として災害に対する十分な備え・対策をとることが出来ません。先の石巻市の例も、初動の遅れが惨事を招いたとされています。

東日本大震災を始め、平成の御代には数多くの災害が発生しています。北海道においても先の胆振東部地震や年毎の台風による被害など、枚挙に暇がありません。こうした自然の猛威に曝される状況は今日にでも起こりうる認識を持たなければなりません。防災を考える上で柱となるのが、①想定をする②対策を考える③対策を実行するの三点であります。仮に地震が発生したと想定した場合、地震自体による被害はもとより、沿岸地域であれば津波や川の氾濫による水害、山間部であれば土砂災害など、地域によって想定される災害は千差万別。市区町村にて作成

令和三年度神道青年全国協議会中央研修会

されているハザードマップ等を活用し、起こりうる災害を認識する必要がある。それをもとに取るべき対策を思案し、実行に移すことが必須となります。釜石市の小学校での成果は、山の上に避難するという実際に即した行動を普段から認識しており、当日実行に移すことが出来た証であります。

どといった協同が出来るのかを確認する必要があります。実際に災害を直面された方々とは経験を比べるべくも無いですが、個人としては東日本大震災や胆振東部地震後の停電などを経て、非常時でも使うことの出来るライトやラジオなどごく簡単な物は入手しました。しかしながら、再度災害に直面した際の備えとしては著しく不足していることは火を見るよりも明らかです。今回の研修をもとに、個人としての備え、そして神社としての備えの必要性をはっきりと自覚せねばならないと実感致しました。

樽前山神社 吉田光臣

去る令和四年三月九日～十日、新潟県、新潟市音楽文化会館にて「発信力〜故郷を愛してやまない若者たちへ〜」と題し神道青年全国協議会中央研修会が開催されました。コロナ禍により全国的にまん延防止等重点措置が実施されている中、ハイブリッド式での開催となり当会からは十二名がWEBにて出席致しました。第一講は、フラール株式会社代表取締役会長を務める渋谷修太先生に、「起業家の力で故郷を元気に〜神社

の魅力発信と未来を考える〜」をテーマとして、二十三歳で起業し会社を興された経緯や各企業と提携してアプリを開発するなどの取り組み、コロナ禍によるデジタル化の必要性などについて御講演戴きました。神社界においても近い未来、一般の方のニーズに応じたデジタル化の導入やより多くの方に神社の魅力を伝えられるようなアプリの開発、普及が必要となってくると提言戴きました。次に第二講は、衆議院議員の稲田朋美先生に、「強くて優しい国」をテーマとして御講演戴きました。先生は国会議員になられてからの活動、政治に対するお考え、先生が実現したい日本について、力強くお話し下さいました。又、先生の政治理念である日本の良き伝統や国柄を守りながら新しいものを創造していくことが大切であり、守っているだけではいつか枯渇をしてしまうとし、伝統無き創造は空虚であり創造無き伝統は枯渇であると説かれ、日本は国際法を守り世界中から尊敬される「道義大国」でなければならぬ。そして全ての人が大切にされる優しい国を目指すことが、日本を強くすることに繋がるのではないかと述べ



挨拶をする北方会長



質問をする会員



第一講師の渋谷修太先生

られました。

翌日の第三講は、古町愛宕神社宮司、NSGグループ会長の池田弘先生に、「青年神職の皆様へ」郷土の精神的支柱と実践者であれ」をテーマとして御講演頂きました。先生は神社の宮司を務めると共に実業家として活動されており、新潟を「世界一幸せで豊かなまち」という大きな志を持って事業に御尽力された御経験から、青年神職は自己実現のためにしっかりと志を立てることが大切であり、その志に則って行動を起こすことで周りから信用を得られ賛同者が増えることや、地域社会の発展に繋がっていくこととなると述べられました。

本研修会に参加し、斯界の未来を見据えた上で青年神職として更に教養を深める契機になり、会員一人一人の資質の向上と自己研鑽を積む貴重な研修会となりました。

伊達神社 黒野紘史



第三講師の池田弘先生



第二講師の稲田朋美先生



中央研修会の様子（北海道はWEBからの参加）

令和三年度 会務報告

自 令和三年 四月 一日
至 令和四年 三月三十一日

道神青協会務報告

四月三日

於 北海道神社庁

■監査会

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・北方副会長・後藤事務局長・本間事務局長・奥野監事・手塚監事)

四月七日

■第二十三回・新年度第一回役員会

於 神社庁・WEB

(菅原会長・勝沼副会長・菊池副会長・北方副会長・後藤事務局長・本間事務局長・横井理事・荒木理事・尾形理事・枝廣理事・鎌田理事・瀧川理事・山本理事・井上理事・中島理事・大西理事・山内理事・月館理事・西山理事・手塚監事・奥野監事・村井顧問)

【役員予定者】内田会員・鳥居会員・板谷会員・尾形会員・山形会員・松本会員・瀧川寛会員・黒野会員・酒井会員・加藤会員・森会員)

■令和三年度北海道神道青年協議会定例総会

於 神社庁・WEB

会員数百四十五名
出席数四十二名
委任状数八十六通

議件

一、令和二年度会務報告
一、令和二年度一般会計歳入歳出決算書承認に関する件

一、令和二年度事業会計収支計算書承認に関する件

一、令和二年度積立会収支計算書承認に関する件

一、令和二年度災害対策基金収支計算書承認に関する件

一、令和二年度財産目録・在庫書籍調査承認に関する件

一、令和二年度会計監査報告

一、令和二年度会計監査報告

一、役員改選の件

一、令和三年度活動方針並びに事業計画案に関する件

一、令和三年度一般会計歳入歳出予算案に関する件

一、その他

五月十一日

■第二回役員会

於 WEB

(北方会長・後藤副会長・荒木副会長・西山事務局長・内田事務局長次長・鳥居理事・板谷理事・尾形理事・山形理事・松本理事・瀧川慎理事・山本理事・瀧川寛理事・中島理事・黒野理事・井上理事・森理事・本間理事・勝沼監事・菊池監事)

六月十一日

■第三回役員会

於 WEB

(北方会長・後藤副会長・月館副会長・荒木副会長・西山事務局長・鳥居理事・板谷理事・尾形理事・山形理事・

松本理事・瀧川慎理事・山本理事・瀧川寛理事・中島理事・黒野理事・酒井理事・加藤理事・井上理事・森理事・本間理事・勝沼監事・菊池監事・芦原参与)

七月十二日

■北海道神宮正式参拝

於 北海道神宮
(北方会長以下十五名)

■第四回役員会

於 神社庁・WEB

(北方会長・荒木副会長・西山事務局長・内田事務局長次長・鳥居理事・板谷理事・尾形理事・山形理事・山本理事・瀧川寛理事・中島理事・黒野理事・加藤理事・井上理事・森理事・本間理事・勝沼監事・菊池監事・芦原参与)

七月十三日

■インスタグラムフォトコンテストパネル展

於 札幌地下歩行空間(チ・カ・ホ)

(北方会長・西山事務局長・内田事務局長次長・鳥居理事・井上理事・瀧川寛理事・黒野理事・森理事・芦原参与)

八月十九日

■樽前山神社正式参拝

於 樽前山神社
(北方会長以下十九名)

■北海道胆振東部地震発災三年慰霊祭

於 樽前山神社 境内

【道神青協役員】

(北方会長・後藤副会長・月館副会長・荒木副会長・西山事務局長・内田事務局長次長・鳥居理事・板谷理事・山形理事・松本理事・瀧川慎理事・山本理事・瀧川寛理事・黒野理事・加藤理事・井上理事・森理事・勝沼監事・菊池監事・芦原参与)

【胆振青年神職会】

大西会員・中島会員・猪股会員・五十嵐会員・黒野維会員・古田会員)

■第五回役員会

於 樽前山神社・WEB

(北方会長・後藤副会長・月館副会長・荒木副会長・西山事務局長・内田事務局長次長・鳥居理事・板谷理事・尾形理事・山形理事・松本理事・瀧川慎理事・山本理事・瀧川寛理事・黒野理事・加藤理事・井上理事・森理事・勝沼監事・菊池監事・芦原参与)

十月二十日

■道研修会前日準備

於 北門神社社務所

十月二十一日

■北門神社正式参拝

於 北門神社
(北方会長以下二十一名)

■第六回役員会

於 北門神社社務所・WEB

(北方会長・後藤副会長・月館副会長・荒木副会長・西山事務局長・内田事

関係団体行事・出向

務局次長・鳥居理事・板谷理事・尾形理事・山形理事・松本理事・瀧川慎理事・山本理事・瀧川寛理事・黒野理事・加藤理事・井上理事・森理事・本間理事・勝沼監事・菊池監事・芦原参与)

十月二十一日～二十二日

【令和三年度道神青協研修会

於 サフィールホテル稚内
受講者 四十七名

【主題】「明日への礎」

～変遷と現状を知り、新たな道へ～

【講師】 株式会社 DO THE SAM

URA代表取締役

吉田 亮 先生

【講師】 北海道神社庁宗合支部支部長

北門神社宮司

山本 泰照 先生

十一月二十五日

【第七回役員会 於 神社庁・WEB

(北方会長・後藤副会長・月館副会長・

荒木副会長・西山事務局長・内田事

務局次長・鳥居理事・板谷理事・尾

形理事・山形理事・松本理事・瀧川

慎理事・山本理事・瀧川寛理事・中

島理事・黒野理事・加藤理事・井上

理事・森理事・本間理事・勝沼監事・

菊池監事)

一月二十四日

【第八回役員会

於 WEB

(北方会長・後藤副会長・月館副会長・

荒木副会長・西山事務局長・内田事

務局次長・鳥居理事・山形理事・松

本理事・瀧川慎理事・山本理事・瀧川寛理事・黒野理事・加藤理事・井上理事・森理事・本間理事・勝沼監事・菊池監事・芦原参与)

二月二十四日

【第九回役員会

於 WEB

(北方会長・後藤副会長・月館副会長・

荒木副会長・西山事務局長・鳥居理

事・板谷理事・尾形理事・山形理事・

松本理事・瀧川慎理事・山本理事・

瀧川寛理事・中島理事・黒野理事・

加藤理事・井上理事・森理事・本間

理事・勝沼監事・菊池監事・芦原参与)

【新春研修会

於 WEB

○出席者 三十六名

【演題】「神社における災害への備え」

【講師】 札幌市防災協会 細川雅彦様

三月十六日

【第十回役員会 於 WEB

(北方会長・後藤副会長・月館副会長・

荒木副会長・西山事務局長・内田事

務局次長・板谷理事・尾形理事・山

形理事・瀧川慎理事・黒野理事・加

藤理事・井上理事・勝沼監事・菊池

監事・芦原参与)

【道神青協通信の発行について】

【令和三年十一月三十日

第八十一号発行 (担当 事業部会)

【令和四年三月三十一日

第八十二号発行 (担当 事業部会)

四月十三日

【神青協第二十三回周年委員会

於 WEB

(山本理事)

四月二十二日

【神青協第一回役員会

於 神社本庁・WEB

(北方会長・勝沼監事・芦原参与)

四月二十三日

【神青協第七十二回神青協定例総会

於 神社本庁・WEB

(北方会長・荒木副会長・西山事務局

長・勝沼監事・芦原参与)

五月二十二日

【神青協第二回役員会

於 三重県伊勢市・WEB

(北方会長・勝沼監事)

五月二十日

【神青協第一回事業委員会 於 WEB

(井上理事)

五月二十日

【神青協第一回神宮啓発委員会

於 WEB

(森理事)

六月七日

【神青協第二回神宮啓発委員会

於 WEB

(森理事)

六月十二日

【神青協第二回事業委員会 於 WEB

(井上理事)

六月二十六日

【神青協第三回役員会 於 WEB

(北方会長・勝沼監事・芦原参与)

七月七日

【神青協第三回事業委員会 於 WEB

(井上理事)

七月十三日

【神青協中央研修会下見

於 ANAクラウンプラザホテル新潟

(勝沼監事)

七月十九日

【神青協第四回役員会 於 WEB

(北方会長・勝沼監事・芦原参与)

八月二日

【神青協神宮啓発委員会研修会

於 神宮

(森理事)

八月三日

【神青協第三回神宮啓発委員会

於 シンフォニアテクノロジィ響ホール

伊勢

(森理事)

八月十一日

【神青協第四回事業委員会 於 WEB

(井上理事)

八月二十六日
■神青協第五回役員会
於 WEB
(北方会長・勝沼監事)

八月二十七日

■神青協夏期セミナー
於 WEB
(北方会長・月館副会長・西山事務局
長・松本理事・井上理事・勝沼監事・
菊池監事・芦原参与・片石会員・吉
住会員・鎌田篤会員・山口奏会員・
吉田光会員・中島英会員・大西俊会
員)

九月十七日
■神青協第四回神宮啓発委員会
於 WEB

(森理事)

九月二十日

■神青協第八回役員会
於 WEB
(北方会長・芦原参与)

十月二十八日

■神青協第五回神宮啓発委員会
於 名古屋市
(森理事)

十一月二日

■神青協第八回事業委員会
於 WEB
(井上理事)

十一月十六日

■神青協第七回役員会
於 靖国神社・WEB
(北方会長・勝沼監事・芦原参与)

■神青協中間換算
於 神社本庁
(北方会長・芦原参与)

十一月十六日～十七日
■硫黄島訪島事業
於 航空自衛隊入間基地・硫黄島
(芦原参与)

十一月十七日

■神青協第六回神宮啓発委員会
於 神社本庁
(森理事)

十二月十四日

■神青協第七回神宮啓発委員会
於 WEB
(森理事)

一月十八日

■神青協第八回役員会
於 WEB
(北方会長・勝沼監事・芦原参与)

一月十九日

■神青協第八回事業委員会
於 WEB
(井上理事)

一月十九日

■神青協第八回神宮啓発委員会
於 WEB
(森理事)

二月九日

■神青協第九回役員会
於 WEB
(北方会長・勝沼監事・芦原参与)

二月二十四日

■神青協第九回事業委員会
於 WEB
(井上理事)

二月二十五日
■神青協第九回神宮啓発委員会

於 WEB
(森理事)

三月八日

■神青協第十回役員会
於 新潟市白山会館・WEB
(北方会長・勝沼監事・芦原参与)

三月九日～十日

■神青協中央研修会
於 新潟市音楽文化会館・WEB
(北方会長・荒木副会長・西山事務局
長・内田事務局次長・山形理事・井
上理事・黒野理事・勝沼監事・菊池
監事・芦原参与・田湯会員・松谷会
員)

三月二十一日

■神青協第十回事業委員会
於 WEB
(井上理事)

三月十五日・二十三日

■神青協第十回神宮啓発委員会
於 WEB
(森理事)

三月十五日・二十三日

■神青協第十回神宮啓発委員会
於 WEB
(森理事)

神道青年全国協議会
第四回インスタグラム
神社フォトコンテスト
「神社とわたしの思い出」

【期間】四月一日～三十日

【応募方法】

①公式アカウント「神社フォトコンテス
ト」(Instagram)をフォロー
②左記の二つのハッシュタグを
つけて投稿

「#神社フォトコンわたしと神社」
「#神社とわたしの思い出」



第4回
インスタグラム
神社フォトコンテスト

神社とわたしの思い出

令和4年4月1日～30日



詳細はQRコ
ードを読み取
りHPへ！

新入会員紹介



たかのぶ
高信
ゆうた
優太

①生年月日

昭和五十九年七月三日

②年齢

三十七歳

③奉務神社

発寒神社

④神社役職

権禰宜

⑤青年会单位名称

文月会

⑥最近ハマっている事

国内の旅行動画

⑦今一番欲しい物

カフェテーブル

令和三年度 協賛金神社一覧

- 【札幌】北海道神宮・三吉神社・豊平神社・札幌諏訪神社・伏見稻荷神社・札幌神社・彌彦神社・信濃神社・札幌護国神社・篠路神社・琴似神社・発寒神社・江南神社・新琴似神社・手稲神社・西野神社・相馬神社・月寒神社・厚別神社・大谷地神社・白石神社・廣島神社・江別神社・錦山天満宮・石狩八幡神社・当別神社・豊栄神社・千歳神社・上手稲神社・烈々布神社・水天宮・西岡八幡宮・新川皇大神社・石山神社・札幌祖霊神社・星置神社・澄丘神社
- 【道南】函館八幡宮・亀田八幡宮・湯倉神社・船魂神社・福島大神宮・尻岸内八幡神社・鹿部稻荷神社・銭亀八幡神社・石崎地主海神社・乃木神社・七重浜海津見神社・一本栗地主神社・落部八幡宮・砂原稻荷神社・意富比神社・上磯八幡宮・雷公神社
- 【後志】住吉神社・龍宮神社・小樽稻荷神社・天満宮・潮見ヶ岡神社・豊足神社・高島稻荷神社・余市神社・仁木神社・美園神社・泊稻荷神社・岩内神社・小沢神社・倶知安神社・京極八幡神社・喜茂別神社・真狩神社・狩太神社・八幡神社・壽都神社・水天宮・厳島神社
- 【空知】夕張神社・岩見沢神社・空知神社・南幌神社・市来知神社・滝川神社・江部乙神社・歌志内神社・赤平神社・出雲神社・樺戸神社・長沼神社・新十津川神社・深川神社・秩父神社・雨竜神社・沼田神社
- 【上川】鷹栖神社・旭川神社・上川神社・東神楽神社・神居神社・永山神社・富麻神社・比布神社・大上川神社・東川神社・美瑛神社・中富良野神社・富良野神社・山部神社・和寒神社・剣淵神社・土別神社・風連神社・名寄神社・下川神社・中川神社・東山神社・北海道護国神社
- 【留萌】苫前神社
- 【宗谷】北門神社・浜頓別神社・厳島神社（枝幸）・豊富八幡神社・歌登八幡神社・厳島神社（礼文）・北見富士神社
- 【網走】網走神道青年会・網走神社・北見神社・女満別神社・美幌神社・津別神社・斜里神社・清里神社・清水神社・端野神社・訓子府神社・置戸神社・留辺蘂神社・常呂神社・上常呂神社・相内神社
- 【紋別】滝上神社・雄武神社
- 【胆振】室蘭八幡宮・中嶋神社・本輪西八幡神社・樽前山神社・恵比須神社・伊達神社・壮瞥神社・虻田稻荷神社・豊浦神社・刈田神社・白老八幡神社・追分八幡神社・早来神社・厚真神社・鶴川神社
- 【日高】義経神社・大神宮社・氷川神社・静内神社・三石神社・浦河神社・様似住吉神社・住吉神社
- 【十勝】帯廣神社・大正神社・川西神社・芽室神社・御影神社・清水神社・新得神社・鹿追神社・土幌神社・土土幌神社・音更神社・札内神社・池田神社・陸別神社・本別神社・定寄神社・浦幌神社・十勝神社・大樹神社・茂岩神社・幕別神社
- 【釧路】厳島神社（釧路）・三吉神社・鳥取神社・昆布森神社・厚岸神社・霧多布神社・川上神社・弟子屈神社・阿寒神社・厳島神社（白糠）・厚岸真龍神社
- 【根室】根室神道青年会

編集後記

先ずは通信第八十二号の発行に際し、社務御多忙の中寄稿を戴きました会員の皆様に心より御礼申し上げます。今期もコロナ禍での事業展開を余儀なくされる中、道神青協インスタグラムアカウントを利用した北方領土に御鎮座されていた神社の紹介や、一般の方へ向けた「北方領土の日」の周知を目的として行いました北方領土啓発事業。またZOOMを用いたオンラインでの新春研修会など、このような状況下でも出来る活動を行って参りました。

今後とも会員一同更なる団結のもと、コロナを言い訳にすること無く、コロナ禍でも出来る事業を模索しながら取り組んで参りますので先輩諸兄、御関係の皆様には御支援、御協力の程宜しくお願い申し上げます。

(黒野)

北海道神道青年協議会事務局

北海道神宮社務所内

電話：〇一一六一一〇二六一

FAX：〇一一六一〇二六四

メール：nshiyama3219@cloud.com